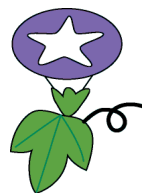


社団法人日本自閉症協会
奈良県支部ニュース

いとしご増刊

きずな 絆

第77号 7月号
発行2004年 7月10日



購読料1部100円

(会員は会費に含まれています)

発行人：社団法人日本自閉症協会

編集人 社団法人 日本自閉症協会 奈良県支部

支部長&事務局：河村舟二 〒639-1055 大和郡山市矢田山町84-10

TEL&FAX 0743-55-2763

URL：http://www.eonet.ne.jp/~asn/

発達障害者支援法について

発達障害者支援法」9月の臨時国会に法案提出、成立をめざすことに

2004年5月19日設立された超党派による議員連盟は、昨日閉会した今国会において法案の提出ならびに成立をめざし努力を続けていますが、不正常だった今国会では日程的にむずかしく、提出は見送りととなりました。次の国会(秋の臨時国会)で法案提出、成立をめざすこととなります。引き続き皆さまのご支援をよろしくお願いいたします。

尚、関連記事については下記をご覧ください。
http://www.autism.or.jp/hs-sienhou/index.htm
平成16年6月14日

社団法人日本自閉症協会

会長 石井哲夫

「発達障害者支援法案」の国会上程について

去る5月19日に設立されました超党派による議員連盟は、今国会において法案の提出並びに成立をめざ

し努力を続けて下さいましたが、年金法案問題などで日程的に厳しい状況となり、次の国会(秋の臨時国会)での法案提出、成立をめざすことになりました。

多くの方に法案の主旨をご理解いただき、法案成立と自閉症児者へのご支援をいただきたく、協会としての基本的な考えをホームページにおいて公開することといたしました。どうかよろしくお願いいたします。

1. 「発達障害者支援法案」についての協会としての基本的な考え

英国自閉症協会が英国政府と、TEACCHが州政府との折衝で自閉症に特化した支援システムを実現しておりますが、日本自閉症協会としても日本における支援システムを実現させていきたいと考えております。

「発達障害者支援法案」は、発達障害を定義し支援の必要性を明らかにするものであり、支援システムを実現させるための根拠が明確とな

るという点で今後につながる 大きな意義があります。

当協会としては、法案成立の取り組みと合わせて、支援システムの実現に向けた検討をすすめる、具体的な事業の整備を行い、自閉症の人とご家族の明るい未来を実現させたいと考えます。

これらの実現には、協会が一致協力して取り組みを行っていくことが大切であり、みなさまのご協力をお願いいたします。

2. 「発達障害者支援法案」が必要な状況をご理解いただくために
(1) 自閉症および発達障害については法的には知的障害者の枠の中での対応となっています。

(2) しかし、自閉症および発達障害については知的障害とは別に困難さを抱えているため、知的障害を念頭においた制度では実態にあった適切な支援を受けられず、支援の対象者としても認定されない人が多くいます。

(3) また、幼児期から学童期にかけての成長の過程において、適切な療育を受けることができれば、自閉症および発達障害による各種の困難

さは、軽減することも可能であり、さらに就労についてもそれぞれの障害の状況に応じて必要な支援や配慮があれば、多くの人が就労し障害を持たない一般の方々と一緒に社会生活を送っていくことができることがわかっています。

(4) これまででは見過ごされることも多かった自閉症および発達障害については、早期に発見し、適切な支援が受けられる環境を整備していくことが、極めて重要であり、まずは「発達障害者支援法」を成立させて、環境整備のための枠組みを確立したいと考えます。

3. ホームページによる関連情報の公開と掲示板による意見交換について多くのみなさまのご理解、ご支援をいただくためホームページにおいて関連情報を公開することいたしました。また、意見交換の場をつくることで、生の声をだしていただき法案成立に近づけるとともに、よりよい支援システム作りにもつながることを期待しています。

平成16年6月14日
社団法人日本自閉症協会

会長 石井哲夫
奈良県の皆様からも発達障害者支

援法案成立に向けた意見を出して下さい。

自閉症協会のホームページには専用の掲示板をもうけてありますので、インターネットにつながる方は一度アクセスして下さい。

<http://www.autism.or.jp/cgi-bin/hs-wforum/hs-wforum.cgi>

なお協会の掲示板利用では、

1 法案を成立させるため、具体的な事例と法案の必要性や、わからないことの質問など、沢山の声をお届けください。

2 なお、障害の状況や環境の違いから、いろいろな見方や考え方がありと思えます。他の人と自分の考えが違う場合に、他の方の考えを直接否定するような投稿はご遠慮ください。

3 他の方とは違う意見を、先に書かれたことの否定ではなく、別にご自分の事例や考えとして記載していただくことは結構です。4 また、協会本部としては投稿内容を十分に読ませていただき、コメントさせていただく場合がありますが、すべてにコメントをさせていただきますことはいたしませんので、ご了解をお願いいたします。※不適切な発言と判断した場合、管理者が削除さ

せていただくことがありますとの留意点がありますので、ご理解ください。

(河村)
平成16年6月16日
日本自閉症協会

会長 石井 哲夫 先生発達障害者の支援を考える議員連盟
事務局長 福島 豊

前略

平素は誠に御世話になり、衷心より御礼申し上げます。

設立総会開催後の、議員連盟の経過についてご報告をさせていただきます。

会期末をひかえた6月15日に、会長 橋本 龍太郎先生、副会長 野田 聖子先生、古川 元久先生、山口 富男先生、阿部 知子先生ご出席のもと役員会を開催させて頂きました。

先般の総会でご了解頂きました要綱を元に作成させて頂きました別紙の法案(概要・要綱・条文を作成)についてご了承をいただき、秋に想定されている臨時国会において法案提出を目指して各党の手続きを鋭意進めていただくことで合意を致しました。

なお、法案提出に先立ち、概算要求に向けて別紙の要望を関係各大臣にさ

せていただくこともご理解いただき、この日に財務・文部科学・厚生労働各大臣に要請させていただきました。

以上、概要御報告させていただきました。

末筆ではありますが、石井先生の益々の御健勝、御活躍を心より御祈り申し上げます。

平成16年6月16日
財務大臣 谷垣禎一殿
文部科学大臣 河村建夫殿
厚生労働大臣 坂口 力

発達障害者支援にかかる施策の充実と予算の拡充に関する要望書

発達障害者の支援を考える議員連盟
会長 橋本龍太郎
広汎性発達障害(自閉症スペクトラム、アスペルガー症候群等)、注意欠陥多動性障害、学習障害等の発達障害は、小中学校の児童・生徒の約9%に認められると言われるなど、頻度の高い障害である。

これらの発達障害を有する者に対して、障害の早期発見・診断、医療的、福祉的、教育的な発達支援を適切に提供することにより、社会的機能の改善が期待でき、また、生活支援や就労支

援により、発達障害を有する者の地域における自立した生活を実現することも可能である。

しかしながら、現在の我が国においては、発達障害を有する者に対する保健福祉施策は、知的障害者施策の一部として部分的に行われているにどまつており、早期発見・早期の発達支援の取組や保健福祉的施策と教育施策の連携も十分とはいえず、発達障害者やその保護者は様々な困難を経験している。

このような状況の中、我々は、発達障害に対する国民の適切な理解の促進とともに、施策の対象として十分な対応がなされていない発達障害者に対し、包括的な支援体制の構築を図るため、超党派の議員連盟を設立し、新たな法律の制定を行おうとするものであるが、発達障害者への支援の充実の緊急性に鑑み、平成17年度予算の概算要求にあたり、発達障害者支援施策が、関係省庁の縦割りを廃し、有機的な連携のもと包括的かつ効率的に推進されるよう、政府に対し下記の要望を行うものである。

一、発達障害に関する早期発見、早期

記

の発達支援から教育支援に至る、地域における一貫した支援体制を構築すること

二、発達障害者の支援にかかる関係機関の連携強化を図るため、発達障害者支援センター（自閉症発達障害者支援センター）の全国整備を実現すること
三、発達障害者に対する生活支援、就労支援の取組を推進すること
四、発達障害者支援を担う人材の確保を図ること
五、発達障害に関する実態把握及び効果的な支援方策等に関する研究を推進すること

以上

自転車で行こう

自閉症協会奈良県支部主催：自閉症の地域支援を考える県民の集い（映画会）
を行います。

現在、療育部が中心となって計画中です。現在決まっていることをお知らせします。

ドキュメンタリー映画『自転車で行こう』上映予定

○日程 11月26日（金）

○場所 大和郡山城ホールホール

○費用 未定。助成申請中で許可されれば無料で行えます。

○上映時間他詳細は、決まり次第、今後「絆」、チラシ、ホームページ等で
伝えさせていただきます。

今回の映画は大阪生野区在住 李君（20歳）

とてもひとなつっこい自閉症者です。彼の1日は自転車に乗って、周りの人との会話から始まります。彼にとつたら当たり前の毎日、それは私たちの子が手を伸ばせば届きそうです。でも、遠い世界！。

障害の人とではなく、一人の人間と接することの大切さ。

「ママさん（今のハルヤンネさん）」が言われた『違う人間…いいえ同じ人間』この言葉を一般の方にも悟らせてくれるのではないのでしょうか？
自閉症関係の方に見ていただきたいのはもちろんですが、それ以上に一般の方に見ていただきたい映画です。

地域の人との関わり、当たり前の毎日の生活での出来事。

それができない障害の人がたくさん居る事の理解。日常生活の中にも今でもたくさん落とし物をしていくことに気づいていただきたい。いえ！気づかせてくれる映画のほずです。皆さん、是非 観に来て下さい。そして、周りの方々にも呼びかけていただだけませんか？！

療育部 金本美知子

映画会についての問い合わせは、療育部の山上さん ☎0742-74-2659 渡邊さん ☎0744-43-2392 金本さん ☎0743-75-5654 にご願ひします。

CAST 李復明（リ・プーミン）

STAFF 監督：杉本信昭 プロ
 デューサー：小松原時夫、住
 田望 撮影：南幸男 ㊄・録
 音：落合智成 編集：村本勝
 EFD：久保田尚 整音：滝澤
 修 音楽：寺嶋琢哉 メディ
 ア映画上映時間 115分 製作
 国日本公開情報 モンタージユ
 初公開年月 2003/12/06 ジャ
 ンルドキュメンタリー株式会
 社モンタージユ 〒156-0057 東
 京都世田谷区上北沢 4-10-18
 TEL: 03-3303-9871 [http://
 montage.co.jp](http://montage.co.jp)



講習会 知

講演会

「自閉症を正しく理解すること」

～教育現場における自閉症支援～

主催：日本自閉症協会 朝日新聞厚生

文化事業団

後援：厚生労働省 文部科学省

熊本県 熊本市 熊本県教育委員会

熊本市教育委員会

熊本県自閉症発達障害センター

いっ

ぽ (予定)

自閉症の人たちに適切な支援をするために必要なこと。それは、言うまでもなく「自閉症の人たちの障害を正しく理解すること」です。いま世界で最も認められている自閉症の人たちへの支援モデルである米国人スカロライナ州のTEACCHプログラムでは、いまだ説明されていないことの多い自閉症の人たちの障害を正しく理解することこそがその究極の目的と言えます。TEACCHプログラムの総責任者ゲーリー・メジボフ教授による、いま最も理解しやすい自閉症を正しく理解し、適切な支援をするための講演会です。

とき 2004年8月31日(火)

10:00～16:00

ところ グランメッセ熊本・コンベ

ンションホール

(熊本県上益城郡益城町)

※熊本空港・熊本県庁から

車で10分

講師 ゲーリー・メジボフ

(ノースカロライナ大学TEACCH部

長)

参加費 3,000円

定員 300人

お弁当1,000円

ご希望の方にはお弁当を用意します

(会場周辺に食堂などはありません)

お申し

込み時にその旨お知らせください。

グランメッセ熊本

熊本県上益城郡益城町福富 1010

TEL096-286-8000

●お申し込み方法

①お名前(ふりがな)

②〒・ご住所

③ TEL・FAX

④ご職業

⑤会場名(熊本会場)

をご明記の上、右記までFAX・Eメール・はがきのいずれかでお申し込み

ください。また、お弁当をご希望の方は
 ⑥弁当希望とお書き添えください。

【お申し込み・お問い合わせ先】

朝日旅行会「熊本講演会」係

〒104-8217 東京都中央区銀座3-

2-16

fax 03-3538-2860

tel 03-3538-2858

E-mail sal@asahiyo.co.jp

孤立する

自閉症：...
前途絶望の事件続発 孤立する家族、体制整備が急務

◇「疲れた……分からなくなりまして」――妻は自閉症児と無理心中した
ゆっくり流れる大きな川の桜並木の堤防近くに、2Kのアパートはある。早番勤務を終え帰宅した会社員(46)はチャイムを押した。「おとうさん」と言つてドアに駆け寄る長女(4)の足音が、今日は聞こえない。鍵を開けた。電気はついている。寝室をのぞくと、妻(43)が、ネクタイで鴨居(かもし)からぶら下がっていた。うつ血した腕が変色している。足元の布団に、長女と小学3年の長男(8)が横たわっていた。首に手で絞めた跡が残っていた。5月31日午後2時48分、会社員は110番した。

「いつかはよくなる」。夫婦はそう信じ、療育(障害者)手帳を取らなかった。口数が少ない妻は誰にも頼らず、一人で根気強く長男に向かった。だが、学校でも勝手に動き回り、冷たい視線を浴びた。昨春秋ごろから妻は「疲れた……」と口にするようになった。

妻とは見合い結婚。会社員の父(74)が「この人なら」と息子に紹介した。魚が大好きな孫を「感心やな」とほめ、トイレに積み木を詰まらせても怒らなかつた父は2月に急死した。それから妻は眠れなくなつた。

精神科に通院させるため実家に帰した。だが、長男は実家でも奇声を上げた。だが、長男は実家でも奇声を上げた。池に石を投げた。裏山に登り、祖父母が捜し回つた。「なじんでいる小学校に通わせたいの」。妻は子供たちを連れ、4月末に帰ってきた。

長男の送迎は会社員の役割になつた。朝6時からの勤務。8時半の休憩に、会社を飛び出す毎日。これでは自分も参つてしまう。施設に短期入所させよう。妻はしばらくしてうなずいた。5月30日、妻は施設入所に必要な療育手帳用の写真を取りに出かけた。調子がよさそうだった。手料理を久しぶりに食べた。翌朝5時、寝ている3人を残して出勤した。それが最後に見た家族の姿だった。

「分からなくなりました」。たった1行の遺書がバッグに残っていた。「長女だけでも実家に残しておけばよかつた。もう誰もいない」。会社員は身よじつた。

「おいけの あめふり ぴち ぱた ぽん」。授業で習つた詩をくちずさみ、いつも長男は学校の玄関で母を待つていた。 × ×

自閉症は乳幼児検診で発見され、早期に適切な療育を受ければ、その後の発達に大きな効果があると言われるが、前途に絶望した事件は続発している。

外見は普通に見えるのに意思疎通ができない、親のしつけのせいにされる……。母子保健の貧困や専門医の不足も、乳幼児期の家族を孤立させる一因だ。

清水將之・関西国際大学人間学部教授(児童精神科医)は「児童精神医学を教える大学は数えるほど。就職先が少ないうえ、診療には非常に時間もかかる。国全体での専門医の養成、医療体制の整備が急務だ」と訴える。【神戸金史、鈴木玲子】

.....

◇一人、アルバム開く

「レンジ、温める」。自閉症児の長男は片言の言葉しか話さなかつた。カレーと魚が大好きで、レンジを自分で操作したが、いつも料理を作る母のじゃまをした。雪だるまのような単純な人形の絵を描いては喜んだ。「遊園地に行くぞ」と声をかけると、にこにこして駆け寄ってきた。お菓子を買ってもらえるかな、と期待する顔がかわいかつた。長女の保育園入園式では、少しめかし込んだ妻が優しく笑っている。アルバムには家族の思い出がいっぱい詰まっている。事件現場の 아파트で、一人残された父はアルバムを開いて見せた。(写真・兵藤公治)

.....

うちの子：.....

自閉症とその家族／1 痛み、分かち合えたら.....

子供の学習机とバッグが、心中事件の現場となつた部屋に今も残る。兵藤公治写す

「パニックを起こした子供を抱え、車列に飛び込もうとした」「何度も首に手をかけたことがある」。4月21

日付の本紙「記者の目」で私(記者)が自閉症の長男(5)について書いたところ、200通以上の反響が届いた。自閉症児の家族からの重い手紙が多かった。私自身、妻から「長男が2歳のころ、このままでは殺してしまうかもしれない」と聞かされた。自閉症は「内気な性格」「引きこもり」とよく混同されるが、親子間でさえ深刻なコミュニケーション不全を引き起こす先天性の障害だ。世間から誤解される一方で、親たちは孤立し追い詰められている。【神戸金史】

◇同じ悲劇繰り返し返さぬため/心中事件の遺族を訪ねた/「近所に知られたら、死ぬ」

◇親の悩み、深く重く
本日1面に掲載した会社員家族の事件からまもなく、また心中事件が起きた。「妻は長男の子育てなどで悩んでいた様子」。記事は長男が自閉症だったことには触れていない。このように報じられる心中事件の中に、かなり自閉症児が含まれているのは間違いがない。事件現場を訪ねた。

取材に応じたのは夫と4人の祖母。祭壇には美しい女性と子供の遺影と骨つぼが並んでいた。現場の凄惨

(せいさん)な光景、遺書、動機……。残された家族は3時間にわたり詳細に語った。ところが、最後になって祖母の1人が突然泣き出した。「記事が出て近所の人に知られたら、私は自殺する」

雰囲気は一変した。「同じ悲劇を繰り返さないために、同じ悩みに耐えている自閉症児のお母さんのために」。頭を畳にこすりつけて協力を頼んだが、にべもなかった。「あんたは商売かもしれないが……」。十数ページ書き込んだノートは取り上げられた。

万策尽きた。畳に手をつき礼を述べた時、不意に胸の奥から熱いものがこみあげた。たしかに私は仕事でここに来た。しかし……。この遺影は未来のうちの家族かもしれない。「頭を押しつけたまま私はこらえ切れずに嗚咽(おえつ)した。「そんなつもりじゃ」と声が聞こえた。私は何度も「すみません」と謝り、涙を抑えられないまま辞去した。

近くにとめてあったレンタカーの運転席に体を沈めた。そのまま1時間近く動けなかった。× × ×
14歳の自閉症の息子のパニックに悩み、手にかけてしまった父親にも取

材を申し込んだ。執行猶予付きの有罪判決が出て、刑が確定している。「私」と長男の生活は決して終わってしまふことはありません。今も一緒に呼吸し、食べて、眠り、会話を交わす毎日です。私の人生のすべてだった」。丁重に取材を断る文面から息子への愛情と悔恨がにじみ出ていた。

しかし、障害児を道連れにした心中事件を調べている市村大三弁護士(51)は「普通の殺人が懲役10年なのに、障害児を殺した親は重くて懲役5年。執行猶予が付くこともある。温情判決は命を軽くしている」と主張する。親に同情しての減刑嘆願運動にも批判的だ。「障害児の親の気持ちがかかっていない」と批判されることもあるが、「殺すくらいなら放り出せばいい。殺されるよりどれだけいいか」と反論する。市村弁護士は長男(15)も自閉症だ。× × ×

この豊かで成熟した時代に、なぜ自閉症児の親たちは追い詰められるのか。

悲しみに暮れる遺族の家から追い出された後、ボートとしたまま私は携帯電話で自宅をコールした。聞きなれた妻の声が続いて、「あはーはん(おとー

さん)。うちの子の声が聞こえた。|| つづく
.....
.....
.....
うちの子.....
自閉症児とその家族/2 違い、見分けつかない

お気に入りのぬいぐるみは、常に同じ場所。少しでも動いているとパニックを起こす。千葉県内の保健師宅で

◇「賢い」が痛みが無頓着/人間関係うまくいかない/「検診すり抜け、多いはず」
「言語が遅れがなく、知的に問題がない場合どこにも療育の場はありません」

千葉県に住む保健師の女性(41)からアスペルガー症候群の長女(6)について書いた手紙が届いた。自閉症スペクトラム(連続体)の中に含まれる障害だ。言葉は話せるが、微妙な皮肉や冗談が分からない。興味の範囲に限られ、対人関係がうまく行かない。それがなぜなのか、自分自身もよく分からない。
保健師の自宅を訪ねた。「お母さん、もう一つお菓子食べていい?」。長女

はうれしそうに菓子を口に入れた。ごく普通の小学1年生。自閉症児の父である私（記者）が見ても、全く健常児との違いが分からない。

1歳半で人気ドラマの主題歌を正確に歌った。「この子は賢い」。祖父母は喜んだ。感覚がおかしいことに気付いたのは、3歳のころだった。風呂で足に青黒いあざを見つけた。「これ、どうしたの?」。けがをしたことの自覚が長女はなかった。

怖いもの知らずで、蜂の巣に手を突っ込んで刺され、3メートルもある滑り台から飛び降り転がってもけろりとしていた。やってみたいことは即実行。スーパーでは香ばしいお茶の大きな缶に腕を突っ込んだ。保健師は平謝りし、ほうじ茶を1キロも買い込む羽目になった。

アスペルガー症候群の中には、痛みに対する反応が過剰な人や、逆に無頓着な人がいる。味覚や臭覚が過敏で、特定の会社のレトルト食品だけ嫌がったり、特定の香水を付けた人が苦手だったりすることもある。

長女は怒ると両足でジャンプしながら、2〜3時間も泣き叫ぶ。「聞き分けがない子」という視線にさらされる

から、保健師はやっと気付いた。

「しかつても、『なぜいけないのか』をこの子は理解していない」

発達心理学を専攻した精神科医を探し、今年1月にやっとアスペルガー症候群と診断された。入学式は迫る。知能は高いのだから、普通の教育を受けさせたい。障害だとは言わずに入学させた。

入学式の帰り道。子供たちがかけっこを始めた。追い抜かれた長女は怒り出した。「あやまってよ!」。相手の子は理由が分からない。保健師がなだめても30分以上パニックが続いた。こんなトラブルが入学後も相次いだ。とうとう6月8日、担任への連絡ノートで「実は……」と障害を告白した。目を合わせて注意をそらさせず、単語を区切ってゆっくり話してくれるよう頼んだ。帰宅した長女は「今日は先生の言っていることが分かった」とご機嫌だった。

自閉症スペクトラムは、新生児100人に1人はいる。わがままでも、親のしつけが悪いのでもない。そういう特性の先天性障害なのだ。特性を理解すれば対処方法はある。「3歳児や就学時の検診をすり抜けている発達

障害児はとも多いはず。保健師としても痛感します」【神戸金史、写真も】

二つづく

◇幅広い発達障害の種類

発達障害は自閉症、アスペルガー症候群、注意欠陥多動性障害(ADHD)、学習障害(LD)などが含まれる。自閉症は知的障害がある場合と、知的障害を伴わない「高機能自閉症」があるが、いずれも(1)対人関係や社会性の障害(2)言葉や目線などコミュニケーションの問題(3)パターン化した行動やこだわりが強い、という症候が見られる。アスペルガー症候群は言葉の遅れや知的障害はない。これらを「自閉症スペクトラム」という。

一方、ADHDは(1)不注意(気が散りやすい、長続きしない)(2)多動、多弁(3)衝動的に行動する、の特徴がある。LDは全般的な知的発達に遅れはないが、読み書きや計算など特定分野に偏りがある。【鈴木玲子】

連載へのご意見、ご感想をお寄せ下さい。ファクス

03・3212・0635
メール shakabu@mainichi.co.jp 毎日新聞 2004年7月4日 東京朝刊

☆障害者差別禁止条例

千葉県が全国初で条例化を目指しています。日頃から人権の尊重をうたう奈良県が全国初とならなかったことは残念です。県だけでなく市町村も早急に検討して欲しいです。

この千葉県の障害者差別禁止条例が全国の模範となるような内容の条例になることを望んでいます。200

2004年7月8日 毎日新聞の記事：
事：

<http://www.mainichi-msn.co.jp/search/html/news/2004/07/08/20040708ddm041010149000c.html> 読売新聞の記事…

<http://www.yomiuri.co.jp/politics/news/20040708it04.htm>

高機能自閉症も対象とするようです。

【編集後記】

今年、暑夏。夏乗
体力よ夏乗
切よ夏乗
選挙終つ、生
言政治。
支部ユー
感想、意見等
寄支部役員。
願